

インドネシアのイスラーム社会における LGBT の実態とこれから

国際政策文化学科 3年 寺岡七海

国際政策文化学科 3年 片岡あゆ

インドネシアは人口の 8 割以上がイスラームを信仰しており、世界で最も多くのムスリムを擁する国である。しかしながらインドネシアはイスラームのみを特別視することはせず、国是を「多様性の中の統一」と定めるなど、国内の宗教、民族、言語、文化の多様性を認め、尊重している。またそれらのことからインドネシアはマイノリティに対し寛容な態度をとってきた。しかしながら 2017 年 8 月のインドネシアにおける加藤ゼミ合宿やその後の文献調査により、マイノリティの一つであるとされる LGBT が、インドネシアの多様性から除外されている可能性が否定できないことが分かった。

そこで本研究は、インドネシアの掲げる「多様性」とは、「多様性」と言い切れないのではないのか、またインドネシアで LGBT が社会的に受け入れられていない理由としてイスラームが大きく影響しているのではないかという 2 つの仮説を検証する。検証のため、2018 年 8 月のインドネシアにおける加藤ゼミ合宿と、2018 年 9 月のプロジェクト奨学金を基にしたインドネシアにおける現地調査を行った。現地調査では、「なぜ LGBT は多様性として認められていないのであろうか」、また実際に「ウラマー（イスラーム学者）は LGBT に対してどのような見解を持っているのか」を明らかにするために、インドネシア最大の宗教社会団体であるナフダトゥル・ウラマーに所属するウラマーに聞き取り調査を行った。

調査を通してまず分かったのは、インドネシアが LGBT に対して不寛容な態度を示しているとされる原因には、イスラームという神学的観点が大きく影響しているということである。一連の調査により、多くのインドネシアのムスリムが LGBT を精神病であるとし、同性婚や同性間の性行為は神学的に認められないものとしていることが分かった。そしてその LGBT に対する解釈が揺らぐことはない。しかしながら一方で、国民の多くは神学的な最終判断を LGBT に対して行なわず、一人の「人」として尊重していることも分かった。インドネシアでは、イスラームという宗教という絶対的な枠組みの中で LGBT を受け入れ、またそれらを実践しようとする姿勢を見ることができたのである。こうしてあえて結論付けずに LGBT の存在を曖昧なままにすることが、インドネシアにおける共存のための最良の方法であったといえる。そしてこの地域性に根ざ

“ウェブ用要旨”16W2115008F 寺岡七海、16W2112009C 片岡あゆ

(2/2)

したインドネシアの LGBT へのあり方も、ひとつの人類共存のためのモデルとしてみることはできないだろうか。



聞き取り調査を行っている様子

2018/09/06 同行者撮影